

小笠原諸島は、かつて一度も大陸と陸続きになったことがない海洋島であり、鳥や風、海流等に運ばれ偶然辿り着いた動植物のうち、環境に適応した種だけが生き残り、隔離された環境下で様々な進化をとげ、多くの固有種が誕生した。維管束植物全体の約40%、昆虫は全体の約25%、陸産貝類（カタツムリ）は約95%以上が固有種である。小笠原諸島の生物進化は現在も進行中であり、環境に合わせて形態を変化し種分化を繰り返す適応放散が確認されている。

## 小笠原諸島の景観

美しい砂浜が多数存在するとともに、多くの固有種からなる独自の植生が見られる。



父島 大村海岸



南島 扇池



父島 乾性低木林



母島 湿性高木林

## 小笠原諸島固有の生物

### 植物

- ・ シマホルトノキ
- ・ オオバシマムラサキ
- ・ ハハジマノボタン 等

### 哺乳類

- ・ オガサワラオオコウモリ



オガサワラオオコウモリ

### 鳥類

- ・ ハハジマメグロ  
(固有亜種)
- ・ アカガシラカラスバト
- ・ オガサワラカワラヒワ
- ・ オガサワラノスリ 等



ハハジマメグロ



オガサワラカワラヒワ

### 昆虫類

- ・ オガサワラハンミョウ 等
- ### 陸産貝類（カタツムリ）
- ・ キノボリカタマイマイ
  - ・ チチジマカタマイマイ 等

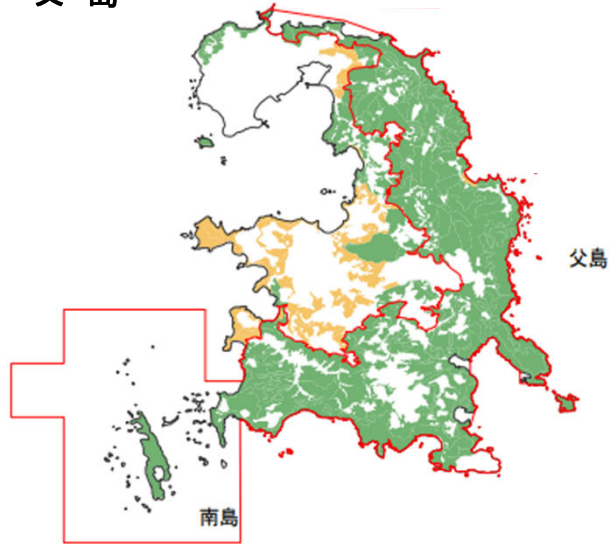


キノボリカタマイマイ

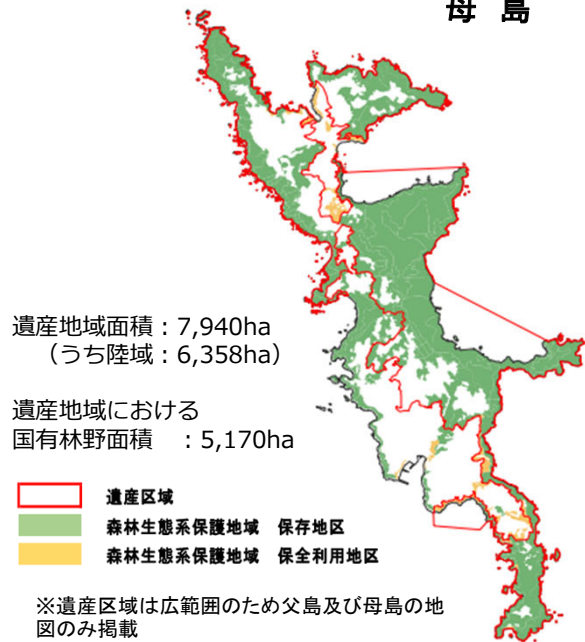
# 「小笠原諸島」における林野庁の取組

- 2007(H19)年に約5千5百haの国有林野（世界自然遺産区域内外に亘る）を「森林生態系保護地域」に設定。
- 希少動植物の保護や固有森林生態系の修復、保護と利用の調整等により適切に保護・管理。

## 父 島



## 母 島



### 希少鳥類・植物等の保護

- ・ アカガシラカラスバト、オガサワラノスリ、オガサワラカワラヒワといった希少鳥類や希少植物の生息・生育状況等の調査、生息・生育環境の維持のための巡視、生息・生育区域の保護等を実施



アカガシラカラスバト



ハヒジマノボタン

### 保護と利用の調整

- ・ 利用による固有森林生態系へのインパクトを軽減するため、森林生態系保護地域の入林は、指定したルートに限定
- ・ 指定ルートの入口には、外来植物の拡散防止対策のため、泥落としマット等を設置

小笠原諸島への入込客数の推移  
 登録前 (H22年度)：約2万人  
 登録後 (H29年度)：約3万人



泥落としマット等

### 固有森林生態系の修復

- ・ 希少種・固有種等の生息・生育環境に悪影響を与えているアカギやモクマオウ、リュウキュウマツ等の外来種の駆除を実施



アカギの特殊伐採

- ・ 生育数が激減しているオガサワラグワについて、生育状況及び生育環境の調査を行うとともに、父島由来のクローン苗を試験的に植栽し、生育状況のモニタリングを実施



試験植栽された  
オガサワラグワクローン苗